

2010 年度助成事業報告

第二外国語としての日本語教育推進プロジェクト

事業報告書

2011 年 5 月

公益財団法人国際文化フォーラム

(TJF)

事業報告

1. 事業名

第二外国語としての日本語教育推進プロジェクト

2. 事業の背景

中国大連市教育局は2006年4月に、市内の小中高校における日本語教育に関する奨励策を発表し、第二外国語としての日本語教育（以下、二外日本語）の導入を含む奨励事業を開始しました。TJFは大連市教育局の要請に応じて同奨励策の遂行に協力してきました。2007年12月には日中の関係者の念願だった「日本語教育専用資金」が同教育局で予算化され、2008年度より同専用資金を活用して、大連側主導の形でさまざまな日本語教育事業が推進されています。貴財団の助成を受けてTJFが大連教育学院と共同で編集制作した二外日本語用教科書『好朋友—ともだち—』（以下、『好朋友』）は、2009年9月に最終冊となる第5巻が完成し、シリーズ全5巻が揃いました。現場の教師や生徒たちからは、「写真が豊富で楽しい教材である」「生徒たちが自主的に日本語を学ぶようになった」等の好意的な評価を得ています。

2010年度は、大連市での成果を踏まえて『好朋友』を使った二外日本語を大連以外の東北三省（遼寧省・吉林省・黒龍江省）に拡充すべく、以下の事業を実施しました。

3. 事業の実施内容と成果

①東北三省における第二外国語としての日本語教育の推進

当初は、TJF職員が東北三省を訪問し、各省の日本語教研員（指導主事）とともに現地ニーズ調査を実施する中で、二外日本語を開設する拠点校（以下、「好朋友実験校」）を認定する計画を立てておりましたが、各省の日本語教研員より、教育行政者ならびに二外日本語の開設に興味のある校長を日本へ招聘し、日本の文化体験や学校見学を通して、日本の教育・文化・社会についての理解を深めてもらうだけでなく、二外日本語実施の意義をTJFとも共有してもらうことによって、各地域・各校での二外日本語の開設を促すことができるとの要望が上がりました。2010年4月には、黒龍江省と遼寧省の好朋友実験校が決まったことを受けて、TJFは、黒龍江省（2010年5月）と遼寧省（2010年6月）の教育行政者と好朋友実験校の校長を日本に招聘しました。2010年9月から、8校約2,000名の生徒が新たに『好朋友』を使って二外日本語を学んでいるとの報告を受けています。

吉林省においては、現地の日本語教研員が独自にニーズ調査を進め、2校の「好朋友実験校」が選定されました。2校約1,000名の生徒が、2010年9月から『好朋友』を使って二外日本語を学び始めたとの報告を受けています。

また、上述した東北三省の二外日本語開設校（計10校）には、『好朋友』第1巻を各校の必要部数分寄贈しました。

「好朋友実験校」と学習者数（2010年9月現在）

遼寧省 (6校) (大連以外の地域)	瀋陽市外国語学校 瀋陽市朝鮮族第三中学 瀋陽市広全中学 (642人) 阜新県仏寺蒙古族学校 阜新県蒙古族中学 北票高級中学
吉林省 (2校)	長春108中学 (1055人) 長春11中学 (50人)
黒龍江省 (2校)	ハルビン33中学 (180人) ハルビン簫紅中学 (210人)

※学習者数を把握している学校のみ（ ）内にその数字をいれた

②中高校の日本語教師を対象としたワークショップの開催

2010年9月から東北三省内の多くの地域で『好朋友』を使った二外日本語教育がスタートすることになったことから、2010年8月に、遼寧省基礎教育教学研究研修センターと共催で「好朋友ワークショップ」を実施しました。本ワークショップは、東北三省の二外日本語教師を対象に、『好朋友』の理念を全員と共有するだけでなく、大連市内の日本語教師の模擬授業の体験を通して、『好朋友』の使い方等の意見交換をおこないました。参加した現場の教師からは、「『好朋友』の教師用指導書や使用説明書等を早く公開してほしい。」との要望が上がりました。そこで、ワークショップを共催した上記センターの日本語教員とも相談した結果、『好朋友』を使う二外日本語教師をサポートするためのウェブサイトを作成し、教師用指導書をはじめ『好朋友』の使用説明書や、ワークショップで発表された授業実践例を掲載することとしました。掲載する資料を揃え、本サイトは2011年3月に完成し、4月に正式オープンしました。

<http://www.tjf.or.jp/haopengyou/>

<好朋友ワークショップ>

主催：遼寧省基礎教育教学研究研修センター、TJF

期間：2010年8月22日(日)～23日(月)

場所：中国遼寧省瀋陽市

参加者：遼寧省内の日本語教師 30名

吉林省内の日本語教師 4名

黒龍江省内の日本語教師 3名

内容：(1)二外日本語教育の意義と目的の共有

(2)『好朋友』ならびに教授方法に関する意見交換

講師：中新井綾子（日本語教育専門家、『好朋友』日本側編集委員）
今井なをみ（日本語教育専門家）
金尚筭（大連市金州区日本語教研員、『好朋友』中国側編集委員）

③東北三省のフォローアップ

東北三省の日本語教研員とTJFは、②で実施した「好朋友ワークショップ」のフォローアップの必要性を感じていた中、吉林省の日本語教研員から二外日本語をすでに実施している東北三省の日本語教師間の意見交換や、二外日本語開設を決めた学校の管理職者間で二外日本語の意義を共有する場として、「好朋友経験交流会」を実施したいとの要望が上がりました。TJFとほか二省の日本語教研員は本交流会の実施に賛同し、当初計画していた巡回指導を2011年度以降に延期し、吉林省教育学院主催で「好朋友経験交流会」を開催することになりました。

<好朋友経験交流会>

主催：吉林省教育学院

共催：遼寧省基礎教育教學研究研修センター、黒龍江省教育学院、TJF

期間：2011年3月26日（土）～27日（日）

場所：吉林省長春市第一外国語中学

内容：

- (1) 二外日本語実施校の管理職者間での二外日本語の実施意義および実施方法の共有
- (2) 二外日本語担当教師間での意見交換
- (3) 二外日本語担当教師を対象としたミニ研修の開催

参加者：43名

- (1) 二外日本語実施校の管理職ならびに二外日本語担当教師
吉林省校長2名、日本語教師12名
遼寧省校長5名、日本語教師12名
黒龍江省校長2名、日本語教師3名
- (2) 吉林省内日本語教研員3名
- (3) 遼寧省内日本語教研員2名
- (4) 黒龍江省内日本語教研員2名

講師：

中新井綾子氏（日本語教育専門家、『好朋友』日本側編集委員）
武田育恵氏（現 大連市弘文中学日本語教師）

④北京にて二外広報活動の実施

当初の計画では、北京と上海で二外日本語教育促進のための活動を実施する予定でしたが、今年度は、JICAの中国派遣隊員を対象に北京で行われる総会の時期に合わせ、当財団職員が北京を訪問し、中等教育機関に派遣されている日本語教師隊員に『好朋友』を広報しました。総会に参加した隊員は、配布された『好朋友』を持ち帰り、その中からは赴任校での二外日本語実施を校長や日本語教師と検討したいとの声も上がりました。本教材の出版元の外語教学与研究出版社（以下、外研社）から、第二外国語としての日本語の開講に興味がある、あるいは計画している学校に本教材2セットを無償で寄贈したいとの申し出も受けており、本教材を希望する隊員には、2セットを寄贈しました。

⑤東北三省・北京以外での二外広報活動の実施

TJFが年に4回発行している中国の日本語教師を対象にした雑誌『ひだまり』の紙面でも、『好朋友』の広報活動をおこないました。中国各地（山東省、江蘇省、福建省、広東省）からの問い合わせだけでなく、国際交流基金のタイやロシア事務所からも問い合わせを受け、本教材を送付しました。

上述したように2010年度は、東北三省を対象に招聘事業やワークショップ等、現地日本語教研員と協同して二外日本語教育の推進を行った結果、予想を上回るスピードで「好朋友実験校」が拡大しました。さらに、東北三省の日本語教研員から「好朋友実験校」の二外日本語実施状況の様子がその他の地域や学校に伝わっており、各地で二外日本語の開講を検討し始めているとの報告も受けています。当初の目的である東北三省内における第二外国語教育としての日本語教育の基盤づくりができただけでなく、現地主導による二外日本語推進活動が定着してきたともいえます。

4. 今後に向けて

(1) 『好朋友』市販化に向けて

『好朋友』の市販化については、2010年9月から『好朋友』の使用が東北三省へ広がったことを受け、さらに広い地域での使用をめざし、外研社から2011年度夏には市販化したいとの意向を受けています。今後は、外研社・大連教育学院・TJFの3者間で協議を進めていきます。

(2) 中国中学校教育代表团招聘と「好朋友ワークショップ」共催の継続実施

『好朋友』を使った二外日本語は学校裁量科目として開設される場合が多く、二外日本語の授業が主要科目と交換されたり、学期によって開講される場合とされない場合があるなど、継続的な開講が困難であることがわかりました。そのため、二外日本語の継続的な開講や新規開講については、学校長や教育行政者の理解と支持が必要不可欠です。2010年度の黒龍江省と遼寧省の代表団の招聘が、『好朋友』を使用した二外日本語教育の新規開設

と定着につながったことを踏まえ、2011年度は、吉林省教育代表団ならびに東北三省を中心とした各地域の学校長ならびに教育行政者を日本に招聘し、二外日本語教育の実施校における継続的な開講を図るとともに、新規二外日本語開設校の増加をめざします。

「好朋友ワークショップ」も2010年度に続き、東北三省内で『好朋友』を使って二外日本語を担当している日本語教師を対象に実施します（遼寧省基礎教育教学研究研修センターとの共催を予定）。『好朋友』を今まで使用したことのない研修生に向けては、二外日本語実施の意義、一外日本語と二外日本語の違いや『好朋友』の理念の共有と、二外日本語の教授法の定着をめざした内容とします。また、『好朋友』を使用している、もしくは、今までの「好朋友ワークショップ」に参加したことのある日本語教師に向けては、『好朋友』を教えている上で、現在抱えている不安や疑問、問題等の意見交換や模擬授業の体験を通して、教師が自身の教授法を振り返り、今後の二外日本語教育に活かせるような内容をめざします。

(3) 「好朋友フォローアップサイト」のさらなる充実

2011年4月に正式オープンした「好朋友フォローアップサイト」には、教師用指導書のほかに以前から要望を受けていた『好朋友』の漫画の台詞に現れる擬音語や擬態語などの教え方等、現場からの疑問や質問に答える資料も掲載します。さらに、本サイトが二外日本語教師同士の情報交流の場となるように、各教師の教案等も収集し公開していく予定です。2011年度以降に実施するワークショップのフォローも本サイト上で行い、これからも『好朋友』が効果的に使われるように、『好朋友』教科書関連資料をさらに充実させ、二外日本語教師に「このサイトを訪れれば、授業設計に役立つ資料が手に入る」と思ってもらえるサイトに成長させていきたいと考えています。

(4) 好朋友モデルカリキュラムの開発

二外日本語は学校裁量科目の中で開設されることが多いとわかりましたが、その開講コマ数や1コマの時間は各学校によって異なっていることもわかりました。学習時間数の関係で、『好朋友』全5巻を授業で取り扱うことができない学校もあり、ストーリー漫画を取り入れたメリットを生かしきれていない状況であることもわかりました。全5巻の教材を1年や1年半といった期間の中で取り扱えるように、期間を設定したカリキュラム等の作成が必要だとの現場の声に応えるために、二外日本語教師とモデルカリキュラム開発に取り組み、完成したモデルカリキュラムを「好朋友フォローアップサイト」上で公開したいと考えています。

(5) 他の地域への普及

TJFは2010年度の東北三省での成果を踏まえて、引き続き二外日本語教育の推進に取り組んでいきます。すでに遼寧省6校、吉林省2校、黒龍江省2校の「好朋友実験校」が認定され、2010年9月の新年度から二外としての日本語の授業が始まっています。今後は、

「好朋友ワークショップ」の継続実施、「好朋友フォローアップサイト」を利用した教師間ネットワークの形成、好朋友実験校の巡回指導等を通して、各省・各地域におけるさらなる二外日本語の推進に取り組んでいきたいと考えています。

また、国際交流基金や JICA から、『好朋友』を北京やその他の地域へ広報し、二外日本語を推進したいので協力してほしいとの依頼を受けています。TJF としては、こうした動きも視野に入れ、一つでも多くの学校で二外としての日本語が導入されるよう、継続的な働きかけをしていきます。

5. 収支報告

貴財団の助成金は、「③東北三省のフォローアップ」に充当させていただきました。

ここに改めて本事業に対するご支援に対して心より感謝申し上げます。

以上